



なぜ若者は「死にたい」に 追い込まれるのか？



伊藤 次郎 さん

NPO法人OVA代表理事
精神保健福祉士

日本の若者の死因の1位は自殺で、インターネット上には「死にたい」という言葉が溢れています。なぜ若者は自殺に追い込まれるのか？実際に若者から相談を受けている経験から、若者の現状を理解し、私達にできることを一緒に考えます。

参加費
無料

平成30年6月14日(木) 午前10時30分～正午

■会場 ソレイユプラザなごや研修室

■定員 抽選30名

■事前申込制 (申込方法は裏面をご覧ください)

■難聴者用磁気ループシステム対応

■対象 市内在住・在勤・在学の方

■申し込み期限：5月25日(金)まで

講師プロフィール

学習院大学法学科卒業。精神保健福祉士。

企業のメンタルヘルス対策を行う人事コンサルティング会社（EAPプロバイダー）、精神科クリニックで働く人のメンタルヘルス対策に従事。

2013年よりマーケティングの手法で自殺に追い込まれている若者に支援を届けようと「夜回り2.0（インターネット・ゲートキーパー）」の手法を開発・実施し、2014年にはNPO法人OVAを設立した。国内外で講演・論文発表も行っている。

日本財団「ソーシャルイノベーター」選出（2016）。

AERA「社会起業家54人」選出（2018）、朝日新聞「ひと」「社説」、NHK「ハートネット」等、国内外のメディア掲載歴多数。

部落差別をこえて

～取材ノートから

臼井 敏男 さん

元朝日新聞論説委員



被差別部落（部落）とはなにか。部落差別はどんなかたちで表れるのか。差別をなくすためには、どうすればいいのか。一昨年つくられた部落差別解消推進法はどんな法律か。新聞記者として部落を取材してきた経験をもとにお話をします。

平成30年6月17日(日) 午後2時～午後4時

参加費
無料

■会場 ソレイユプラザなごや研修室

■定員 抽選60名

■事前申込制（申込方法は裏面をご覧ください）

■難聴者用磁気ループシステム対応

■対象 市内在住・在勤・在学の方

■申し込み期限：5月25日（金）まで

講師プロフィール

1949年、岡山県生まれ。東京大学法学部卒業。1972年、朝日新聞社入社。宮崎支局、行橋支局、福岡総局、朝日ジャーナル編集部、東京社会部をへて、大阪社会部次長、東京社会部次長。1997年、論説委員、2000年、東京社会部長、2003年、論説副主幹。2009年、定年。引き続き、朝日新聞でシニアライターとして「ニッポン人脈記」を担当、「叛逆の時を生きて」と「差別を越えて」を執筆した。2010年、朝日新聞社を退職した。2009年4月より、慶應義塾大学非常勤講師、武蔵大学非常勤講師、中央大学客員講師を歴任、現在は中央大学兼任講師。著書 『叛逆の時を生きて』（朝日新聞出版）、『部落差別をこえて』（朝日新書）